

科目名	比較文化概論				
英語科目		ナンバリング	(https://syllabus.kyoto-su.ac.jp/syllabus_search/#n) を参照		
開講期	秋学期	開講学部等	文化学部	配当年次	1 年次
教員名	井尻 香代子, 今松 泰, 奥野 圭太郎, 久米 裕子, 雲岡 梓, 近藤 剛, 高橋 早紀子, 竹内 茂夫, 中田 美絵, 藤高 和輝, 吉野 秋二, 若松 正志				
			単位数	2 単位	

授業概要／Course outline

世界や日本の文化を理解するためには、何に関する学びが必要でしょうか？言語、衣服、食事、音楽、風土、歴史、政治など様々なことがあります。世界の多くの文化において人々が生きていく上の行動規範にしていることが宗教です。宗教を軸に生活を組み立てている文化も多いので、そうした文化に接する時には自分が信仰する・しないに関わらず、その宗教についていくらかでも理解しておく、より良いコミュニケーションができるでしょう。宗教についてはメディアやマスコミではどうしてもある特定の面からの報道になりますので、それをどう読み解いていくかについても触れていきます。

また、それぞれの宗教はそれぞれの言語で記されていますし、文化を理解する時には翻訳ではなくてその文化の言語そのものを学ぶことによってより深く理解することができるだけでなく、楽しさも増します。言語についても世界には想像以上にたくさんの言語がありますが、日本語や英語の立ち位置も世界の言語から見ることによって、メディアが伝えるのとは違う姿がわかります。この授業では、まずこの大学がある京都に付いて大まかに学び、それから世界の各地域について宗教を軸に学んでいく予定です。

授業形態、授業方法等／Course form・type

【授業形態】

対面授業

【授業方法】

講義

- ・ICTを活用した授業（形態：遠隔教育（ビデオ・オン・デマンド等））
- 全体の振り返りとまとめ、追加・補足説明をオンデマンドでおこないます。

授業内容・授業計画／Course description・plan

12名の教員によるリレー講義です。

第1回 はじめにー授業のねらい・ガイダンス・模擬授業ー（若松、他）

この授業の概要について説明します。京都を中心とした日本の文化や世界の様々な文化を見るだけでなく、それらを比較する時に一つの鍵となる宗教について、いくつかのアプローチを紹介します。

<トピック1 京都文化の諸相>

第2回 京都の歴史・民俗（吉野）

平安京・京都の民衆はどのように生きたのか、食生活を中心に講義します。

第3回 京都の文学・芸術（雲岡）

神社では中世以降、神仏を楽しませるために社寺に連歌を奉納する法楽連歌が広く行われていました。賀茂社を中心として、そこで行われていた伝統的な文芸である連歌について講義します。

第4回 京都の美術・文化財（高橋）

京都の美術・文化財を取り上げ、グローバルな文化的視野から伝播と変容について考察します。

第5回 観光における宗教の関わり（奥野）

過去と今日の観光文化における宗教の位置づけとその関係性について事例を挙げつつ解説します。

<トピック2 世界の地域の諸相>

第6回 日本編（若松）

日本における宗教の歴史と近年の宗教に関する動向について講義します。

第7回 中国編Ⅰ（久米）

映画のワンシーンを手がかりに、中国の三大宗教、儒教・仏教・道教について解説します。

第8回 中国編Ⅱ（中田）

唐代中国の宦官の仏教信仰について、中国における儒教的なジェンダー秩序という観点から解説します。

第9回 ヨーロッパ編I（竹内）

新約聖書の概要（福音書、使徒行伝、書簡、黙示録）と、キリスト教とヨーロッパの1750年までの音楽の関わりについて概観します。

第10回 ヨーロッパ編II（近藤）

ヨーロッパ・キリスト教文明の盛衰について、ローマ教皇史を軸として講義します。

第11回 アメリカ編I（藤高）

ジェンダーの視点から身近なトピックを取り上げ、アメリカにおけるジェンダーと宗教の関わりについて講義します。

第12回 アメリカ編II（井尻）

中南米では、スペインやポルトガルで優勢であったカトリックが、歴史や文化の形成において大きな影響を及ぼしてきた。現ローマ教皇フランシスコを生み出した中南米のカトリシズムと文化について概観します。

第13回 中東編 I（今松）

中東の諸言語、諸宗教について概観したのち、イスラームの分派、教義、宗教実践から、中東の統一性と多様性について講義します。

第14回 中東編 II（竹内）

アラブ諸国の中で別個の存在であるイスラエルと、その根本にあるユダヤ教、その正典である旧約聖書（ヘブライ語聖書）はキリスト教やイスラームでも共有している部分がありますので、旧約聖書の物語、律法、詩（詞）や格言、預言の世界を見ていきます。

★オンデマンド おわりに（若松）

全体の振り返りとまとめ・追加・補足説明をおこないます。

事前・事後学修／Preparation and assignments

各回の授業について、事前・事後あわせて180分の学修を行うことが求められています。

第1回 はじめにー授業のねらい・ガイダンス・模擬授業ー（若松、他）

〔事前〕シラバスをよく読み、関心のある事柄について世界史や日本史の教科書を復習したり、気になるキーワードを検索したりしておくこと。

〔事後〕授業で配付したプリントを復習しておくこと。

第2回 京都の歴史・民俗（吉野）

〔事前〕moodleに教材・学習方法を告知しますので取り組んでください。

〔事後〕授業内容を復習するとともに、関心をもった点・疑問を感じた点について、文献・webなどで調査して下さい。

＜教材（参考文献）＞

- ・吉野秋二『古代の食生活』（吉川弘文館、2020年）
- ・大田区立郷土博物館編『トイレの考古学』（東京美術、1997年）

第3回 京都の文学・芸術（雲岡）

〔事前〕書籍・辞典・webなどを用いて、授業で中心的に取り扱う「連歌」について、どのような文芸であるのか、和歌との違いは何かを調査して下さい。

〔事後〕配付資料を読み返して復習し、板書事項を自分なりにまとめ直して下さい。

第4回 京都の美術・文化財（高橋）

〔事前〕京都の美術・文化財について、伝播と変容といった視点から自身の考えをまとめておくこと。

〔事後〕小テストで間違った問題を復習し、興味・関心をもった作例について関連図書を読んで理解を深めておくこと。

第5回 観光における宗教の関わり（奥野）

〔事前〕自身が過去に行った観光地や訪れた旅先で、どのような宗教施設を見に行ったか、その際、行く前にはどうしてそこを旅行先に選んだか、現地ではどのような心持ちになったか、何か感じるものや印象に残っていることはあるか、よく思い出して文章にまとめる。

〔事後〕授業内容をふまえて、過去に自身が行った観光地や訪れた旅先において、「宗教が関係するもの」や「宗教性を帯びているもの」を改めて思い起こし、事前学習でまとめた文章と比較して新たな知見を得た点を中心に、文章にまとめる。

第6回 日本編（若松）

〔事前〕 moodle上に自習課題を出すので、取り組んできて下さい。特に、高校で日本史を勉強していない人、日本史が苦手な人は、必ずこれをやって授業に臨んで下さい。

〔事後〕 授業内容を復習するとともに、関心をもった点・疑問を感じた点について、文献・webなどで調査して下さい。

第7回 中国編Ⅰ（久米）

〔事前〕 中国にどのような宗教があるのか、儒教・道教・仏教について、コトバンク（<https://kotobank.jp/>）などを利用して事前に調べてきて下さい。

〔事後〕 授業内容を復習するとともに、関心をもった点・疑問に感じた点を書き出し、図書館やCiNii Research（<https://cir.nii.ac.jp/>）で調査して下さい。

<教材（参考文献）>

・加地伸行『儒教とは何か（増補版）』（中央公論新社、2015年）

第8回 中国編Ⅱ（中田）

〔事前〕 「司馬遷」・「宦官」について調べてきてください。高校で世界史を勉強していない人は、10世紀頃までの中国王朝の変遷を確認しておいてください。

〔事後〕 授業内容を復習するとともに、関心をもった点・疑問を感じた点について、図書館などで調査して下さい。

第9回 ヨーロッパ編Ⅰ（竹内）

〔事前〕 新約聖書の目次を見て（邦訳聖書もネットで簡単に見ることができます）、気になる書物があれば読んで下さい。

・口語訳新約聖書 <https://bible.salterrae.net/kougo/html/>

〔事後〕 授業で配付したプリントを復習しておくこと。

第10回 ヨーロッパ編Ⅱ（近藤）

〔事前〕 カトリック、ローマ教皇、パチカンという言葉について調べておくこと。

〔事後〕 配付したレジュメを読み返して、内容の理解に努めること。

第11回 アメリカ編Ⅰ（藤高）

〔事前〕 「ジェンダー」について自分なりに調べ、予備知識を得ておくこと。

〔事後〕 授業内容を復習し、自分の言葉でまとめること。余力があれば、授業で紹介した参考文献を読むこと。

第12回 アメリカ編Ⅱ（井尻）

〔事前〕 ラテンアメリカのキリスト教や先住民の宗教について、図書館のデータベースや以下の参考文献で調べ、予備知識を得ておくこと。

〔事後〕 授業の際に配付するレジュメや資料を復習し、他地域の状況との比較をとおして自分なりの意見を書き留めておくこと。

<教材（参考文献）>

・G・アンドラーデ・中牧弘允編『ラテンアメリカ 宗教と社会』（新評論、1994年）

・メアリ・ミラー・カール・タウベ編著『マヤ・アステカ神話宗教事典』（東洋書林、2000年）

第13回 中東編Ⅰ（今松）

〔事前〕 現代中東にどのような国があるか、地図で確認しておいて下さい。

〔事後〕 授業内容を復習し、関心をもった点、疑問に感じた点などを、文献などで調べて下さい。

第14回 中東編Ⅱ（竹内）

〔事前〕 旧約聖書（ヘブライ語聖書）の目次を見て（邦訳聖書もネットで簡単に見ることができます）、気になる書物があれば読んで下さい。

・口語訳聖書 <https://bible.salterrae.net/kougo/html/>

・文語訳聖書 <http://jcl.ibibles.net/>

・各国語聖書 <https://biblehub.com/>

〔事後〕 授業で配付した教材を復習し、最近出版された市川裕『ユダヤ人とユダヤ教』（岩波新書新赤版1755。岩波書店、2019年）などを読んで理解を深めて下さい。

★オンデマンド おわりに（若松）

〔事前〕 これまで配付されたプリントやmoodleなどを一通り見ておくこと。

〔事後〕 これまで学んだことを復習すること。

授業の到達目標／Expected outcome

1. 現代世界におけるグローバル化と文化の多様性について理解を深めること。
2. 文化を学ぶための方法・理論・考え方・専門用語などを把握すること。
3. 2年次以降の演習の選択につながる情報・知識を得ること。

身につく資質・能力／Competencies to be attained

- | | |
|--------|----------------|
| ・幅広い教養 | 専門知識・専門技能 |
| | 【文化学部 京都文化学科】 |
| | ・文化の多様性の理解 |
| | ・京都文化に関する幅広い教養 |
| | 【文化学部 国際文化学科】 |
| | ・人文学に関する知識 |
| | ・地域文化に関する知識 |

履修上の注意／Special notes, cautions

- ・この科目は必修です。毎週出席し、文化学部における学習の基盤を構築して下さい。
- ・大人数の授業です。私語が多い場合は、座席指定にすることも考えます。
- ・課題はそれぞれの先生によって方法が異なります。しっかり対応して下さい。
- ・授業の前後には必ず、moodleを確認するようにして下さい。

評価方法／Evaluation

平常点（各回の授業で出される課題などの点数の合計）100%

教 材／Text and materials

教室またはmoodleでプリントなどを配付。

質問や相談の方法／Instructor contact

この科目に関して、各回の授業や課題に関する質問は、その回の担当者にメールして下さい。担当者の連絡先は、初回授業及びmoodleでお知らせします。その際、学部・学科、年次、学生証番号、氏名とともに「科目名」も書いて下さい。メールの書き方については、情報処理実習(基礎)で学んだことを復習しておいて下さい。